

実施結果報告書

1. 学校名 : 上越市立上下浜小学校					
2. 学習名称 : 総合的な学習の時間 地域学習・自己発見学習					
3. テーマ : 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」					
4. 実施教科 : 総合的な学習の時間・社会科・国語科					
5. 関連単元 : 社会科「わたしたちの暮らしと政治」 国語科「おすすめパンフレットを作ろう」 総合的な学習の時間「ポスター大研究」					
6. 実施単元数 :					
7. 学年	6 学年	8. クラス数	1 クラス	9. 生徒数	10 名
10. 実施内容 【1 学期】 ○6 月〔活動の始まり : 社会科との関連から〕 6 年間の総合的な学習の時間のまとめとして地域をよりよくしたいという願いをもった児童は、それぞれ理想のまちを思い描き始めていた。そこで社会科の学習「私たちの暮らしと政治」の学習と関連させて、政治の働きとまちづくりの関連を学習した。教科書や資料集で調べ活動をしながら、現職の市議会議員と懇談した。上越市でも市民の願いをかなえるための政治の働きが機能し、よりよいまちづくりのための政策が計画的に実施されていることを知った。また、市議会議員からは市民の願いの実現のために、先進的な取り組みを視察により学んでいると聞き、児童も地域を飛び出して情報を収集し、体験的に学びたいという思いをもった。 ○7 月〔課題発見のための活動〕 上越市の特徴を知り、比較することで視察の候補地を決めるために総合的な学習の時間の活動「地域の自慢をもっと深掘り！」として、これまでの学年で経験してきた地域探究学習を振り返って地域の自然豊かな場所を再訪し、上越市内の歴史的文化財を「上越歴史ツアー」として訪れてきた。その際、最寄りの駅を活用した。以前に理想のまちづくりを考えたとき「駅があったらいいのに」と発言があったことを思い出し、学校の目の前に便利な駅があることを認識した。また、地域は海に面し観光資源として有効であることやその割に観光客が少ないことなどの特徴に					

気付き、類似する地理的条件をもち、観光産業が盛んなところとして佐渡市を視察地として修学旅行の目的地とした。

【2学期】

○9月

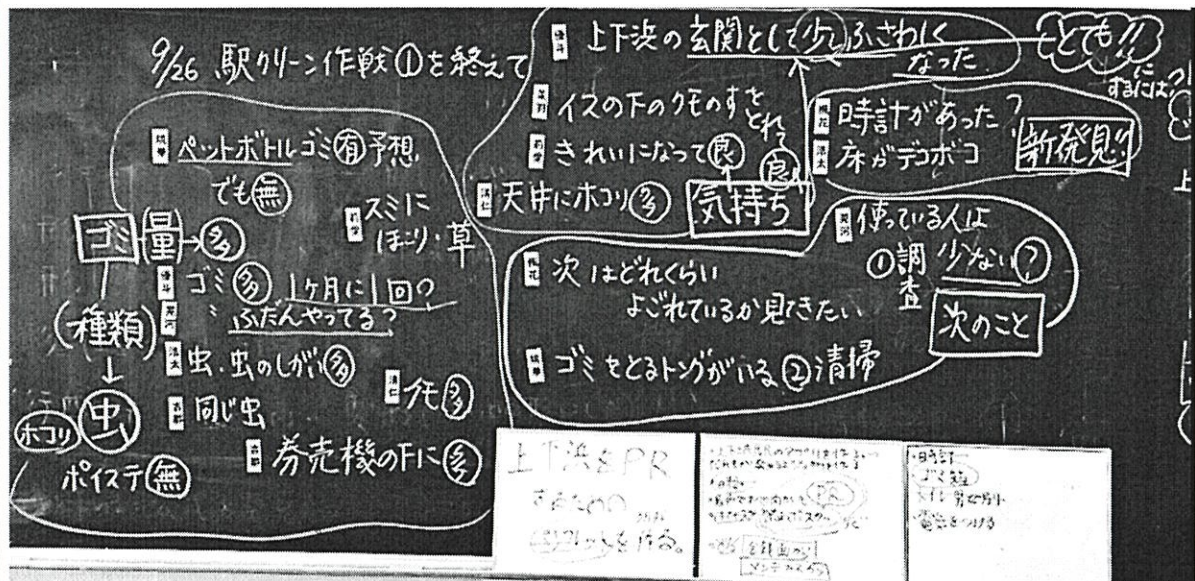
夏季休業中に飛び込んできた「佐渡金山の世界遺産登録」のビックニュースを追い風に、修学旅行で佐渡市を訪れた。佐渡市世界遺産推進委員会所属の職員から講義を受け、宿泊先の主人から観光産業に関わるきっかけや考え方を聞き、大きな影響を受けた。また、実際に釣りやイカの塩辛作りを体験し、佐渡独自の金山関係観光や太鼓体験を行い、体験的な活動の楽しさを味わってきた。

○9月 24 日、10 月2日 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」**「地域の玄関口・駅をきれいにしよう」**

「上越歴史ツアー」の際活用し、便利さを実感した最寄り駅に興味をもってのことから駅を訪問した。児童から清掃活動の提案があり、JR 東日本に連絡して実施した。駅舎やホーム、連絡橋の清掃を行ったが、道具が不足だと気付いた。そこで、二度目は窓のサンの汚れを掻き出す棒や薄手の雑巾、点字ブロック付近にたまった砂を掻き出すコシの強いほうきなどを持ち寄り、確実にやり遂げた。その際、停車車両に出会ったが、日中は乗客が非常に少ないことが分かった。

実施記録①





【後日、気付いたことを出し合い、次の活動の構想をした際の板書】

○10月4日 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」

先進的な取り組みの視察(現地学習)

それまでの鉄道利用の経験により他の都市でのまちづくりに興味をもったことから気候や地理的条件が類似している富山市での学習を実施した。地元 JR 上下浜駅からえちごトキめき鉄道に乗り継ぎ、北陸新幹線へと乗車体験をした。JR 信越線とえちごトキめき鉄道、上越妙高駅の乗り継ぎのよさに「もっと乗っていたかった。」「あっという間に着いた。」という反応だった。上越妙高駅では、乗り継ぎに1時間空いたのだが、駅前の「釜蓋遺跡ガイダンス」という施設を訪問し、駅前観光施設の利便性に気付くことができた。

富山市では、市役所職員から鉄道を生かしたまちづくり「おだんご(駅やバス停)と串(路線)のまちづくり」について講義を受け、実際に路面電車への乗車体験を行った。さらに、富山地方鉄道の車庫で車両や整備を見学し、市民や観光客の足を守る仕事の重要性を学んだ。

鉄道会社の方や市役所の職員から鉄道の良さや利用状況について話を聞くなどして、鉄道利用の現状を学習した。そこで、鉄道利用は観光を目的とするばかりでなく、通勤通学や買い物・通院など生活の手段として重要な側面があることを聞いたり、実際に目にしたりして実感した。子どもたちは、「電車＝旅」と考えていたため、交通手段の発達が生活を豊かにしてくれるものであることに気付き、自分たちの地域の駅に対する思いが高まるきっかけとなった。

さらに、公共交通機関の利用が渋滞の緩和による利便性の向上や温室効果ガス排出削減などの環境問題の解決につながるものであることを知った。そこで、多くの人に地域の鉄道路線の良さを知らせるとともに活用を広げ、地域の活性化につなげたいと考えるようになった。

実施記録②

実施記録② 先進的な取り組みの視察(現地学習)



児童の振り返り作文から

路面電車は、どこでも乗れて、どこにでも行けるのでとても便利だと思いました。富山市の市役所の方がお年寄りに席を譲っていて「僕もそういうことができるようになりたいな」と思いました。使う人が少なくなっていることで、公共交通がなくなるかもしれないと聞いて、たくさん使って出かけたいなと思いました。

路面電車に初めて乗りました。天気が悪かったけれど、外の景色がとてもきれいで、晴れている日だったらもっときれいだっただろうと思いました。路面電車は道路にあったら不便ではないのかなと思っていましたが、高齢者が乗りやすいのだと思いました。自分の市にもあれば便利だと思いました。

市役所の方にお話をお聞きして富山市のまちづくりのことがよく分かりました。行く前は路面電車のメリットはあるのかと思っていましたが、いろいろなところに行けるし、車を減らせるので渋滞が減らせること、CO₂が減らせるので地球にやさしいことが分かりました。富山市のように暮らしやすい上下浜にしたいと思いました。

9月～11月 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」

地域活性化活動①「大漁旗でのPR大作戦」

これまでの校外学習で見学したり体験したりしたことをもとに、鉄道利用の活性化を切り口に地域の活性化につなげる表現活動を行った。

まず、活動を始めたところからの願いであった「観光客の誘致」のためには、地域のよさを知らせたらよいと考えた。そこで、これまでの学年の学びをもとに地域の豊かな自然を盛り込んだウェルカムフラッグ的なものを制作したいという考えが出た。そこで、「JR 上下浜駅は地域の入り口だ」ということから、「駅に降り立った人がもう一歩地域に足を踏み入れるためには、自分たちの学校がよい目標になる！」との考えから、旗を学校に飾りたいという思いが生まれた。ちょうど学校が創立150周年であることから、海の町らしく大漁旗にすることや、歴史ある学校や海岸に咲く美しいハマナスの花をデザインに取り入れることを話し合っ

て決めた。そして、JR 信越線の線路上や国道に面した校地内に旗を掲げることにした。旗は児童が考案したデザインから候補を3つに絞り、全校児童に投票を呼びかけ、決定した。大漁旗の制作は初めてだったため、専門業者にアドバイスを受けながら色やデザインを決定し、その業者に発注した。

出来上がった大漁旗は、学校の創立150周年記念学習発表会（11月9日）で披露・紹介し、その後、児童の手で学校に毎日掲げている。（雨天時は、児童玄関へ）後日、大漁旗について近隣の地域の方から評判になっているという話があった。

実施記録③



11月25日 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」

JRの方から上下浜駅について話を聞こう

駅の清掃活動を見守っていただいたことをご縁に、JRの方より出前授業をしていただいた。JRが行う安全や環境保護の対策についてや、JR 上下浜駅の乗客数の推移についてグラフを示しながら説明を受けた。

児童は富山駅で聞いた公共交通機関の利用が温室効果ガスの削減につながることや、以前の乗車体験でワンマンカーだったために運転手さんが一人何役もこなしていることを想起し、ポスターで利用マナーを呼びかけたいという思いが生まれた。

また、乗客数が減っていることから「駅がなくなるのではないかと危機感を抱く児童もいた。利用者を増やすために大漁旗だけでなく、パンフレットで興味をもってもらいたいという願いも生まれた。

実施記録④



【3 学期】

12 月～2 月 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」

地域活性化活動②「みんなの駅をより良い駅に！ポスターで呼びかけ大作戦」

日ごろから利用している地域の人向けに、学んできたことをポスターにしたいという思いはあったが、思うように制作できずに停滞してしまっていた。そこで、学校中のポスターを集め、「ポスター大研究」を行った。児童は、「イベント型」「呼びかけ型」「壁新聞型」「マップ型」などネーミングをしながら分類し、自分たちは、「呼びかけ型」にしたいことが明確になった。そこでそれらの特徴を抽出し、「キャッチコピーと分かりやすいイラストや写真など、インパクトが大事」という結論を出し、制作を行った。利用のマナーや乗客を励ますものなど、数種類制作した。

2 月 13 日に JR の職員の方に見守られて、JR 上下浜駅に掲示した。

実施記録⑤



児童の振り返り作文より

古川さんと田村さんに「とても良い」と言われて、ポスターを作ってよかったと思いました。駅にはるとき、古川さんが手伝ってくれました。駅を利用する人たちに見てもらいたいです。

（ゴミの持ち帰りを呼び掛ける）ポスターの紹介をすると、古川さんに実際に窓にお弁当や飲み物が置いてあったと聞きました。「次の人のことを考えることがとても大切だ」と言ってもらい、ポスターにしてよかったと思いました。自分も電車に乗るときには、気を付けたいと思います。

「いってらっしゃい」のポスターを（古川さんの上司の方達から）評判が良かったと聞いて、ポスターを作ってよかったと思いました。どんな色にすればよいか考え、大変なこともあったけれど、ポスターを作るのはとても楽しかったです。

田村さんたちにポスターを紹介すると「はなやかでいいですね」とほめられました。やってよかったなと思いました。実際にはりに行き、また「地域貢献ができた」と思いました。

1月～3月 総合的な学習の時間「ここで生きる～つながる道・広がるみらい～」

地域活性化活動③「駅をより良く！パンフレットで興味をもってもらおう大作戦」

観光客向けに学んできたことをパンフレットにして知らせたいという願いから、パンフレットを制作した。国語科の学習「パンフレットを作ろう」での学習を生かし、各自がページやコーナーを分担して製作した。上下浜小学校は明治時代に日本海からの強い季節風に倒された校舎を立て直した借金をたまたま流れ着いたクジラをさばいて売って賄ったという歴史がある。地域の人の教育にかける思いの強さを入学したころから学んでいる児童は「地域の歴史は学校の歴史とも言える」という思いが強い。そこで、知っていることパンフレットにまとめ始めた。さらに、学校の歴史を小説として出版した作家の先生から、その動機や執筆の苦労も合わせてインタビューして感想など共に1つのコーナーにまとめた。それらを、印刷・製本してパンフレットを制作した。

自分のことじゃなくて、学校を優先する地域の人たちの未来を思う熱意が伝わってきた。自分はこの学校を誇りに思い、さらにこの150周年という記念の年に卒業できることのうれしい。中学校に行っても「自分がこの話を受け継ぐんだ」という気持ちをもって新しい友達に伝えていきたい。

くじらが流されてきたとき、他の村はどうするか迷ってしまったけれど、この地域の人は学校に対する思いが強かったからすぐにくじらを解体しようとなったのかと思いました。地域の人の学校に対する思いが強いことが改めて分かったので、未来の子どもたちのために頑張ってくれたと思うので、感謝しながら過ごしたいです。

そして3月17日に、JRの職員に見守られて
できあがったパンフレットを上下浜駅に設置した。

実施記録⑥



学校の歴史が小説と絵本になっている！

この「わたしたちのクジラ学校」は、当時の4年生が、地域を巡って作ったものです。
その内容は、縦書きで書かれており、13枚も載っています。当時の生活の様子や、この地域に伝わる文化の宝を多く残っています。手に取りながら読んでみてください。

この小説は、小林基三先生が長年かけて書かれたものです。多くの人達が登場し、みんなが地域のことを話し合っていて、くじらや船が描かれています。そのおまけで学校の歴史なども載っています。じっくり、読み込んでみてください。くじら学校の歴史が小説と絵本になっています。

作者の小林基三先生にインタビュー

この小説を讀んで思ったのは何ですか？

小学校の頃の先生の厳格で伝説や伝説が好きでした。先生の話を聞きながら、くじら学校の歴史が小説と絵本になっていることがとても面白かったです。

読んだことはありますか？

読んだことはありますが、当時の生活が人々になかなか伝わりません。くじら学校の歴史が小説と絵本になっていることがとても面白かったです。

読んだことはありますか？

読んだことはありますが、当時の生活が人々になかなか伝わりません。くじら学校の歴史が小説と絵本になっていることがとても面白かったです。

読んだことはありますか？

読んだことはありますが、当時の生活が人々になかなか伝わりません。くじら学校の歴史が小説と絵本になっていることがとても面白かったです。

11. 指導計画

1 ねらい

地域の玄関口である「上下浜駅」を訪れることで親しみをもち、総合的な学習の時間の活動であるまちづくりの起点として、駅を一層身近に感じることができるようにする。

2 日時・内容

(1) 上下浜駅見学

- ・ 9月13日（金）・・・地域の玄関口としてふさわしい駅にするための情報収集

(2) 上下浜駅での乗車体験

- ・ 7月10日（金）・・・「上越歴史ツアー①」（社会科校外学習）
〈上越妙高駅～直江津駅～上下浜駅（片道）〉
- ・ 10月4日（金）・・・富山市への校外学習
〈上下浜駅～直江津駅～上越妙高駅～富山駅（往復）〉

(3) 上下浜駅での清掃活動（2回程度を予定）

- ・ 9月24日（火）11：20～11：50
- ・ 10月2日（水）10：30～11：00
- ① 掃き掃除
- ② 拭き掃除
- ③ 除草 など

(4) 地元地域の玄関口として地域をPRできる活動

- ・ 実施（10月～3月）
- ・ 上下浜小学校との距離の近さを生かして、クジラ学校として歴史深い学校が地域の自慢であることが伝わるような活動を考え、実施する。

3 活動内容について

(1) 見学

- ・ 駅を訪問し、駅の様子を見学する。学校に戻り、感想を伝え合い児童とともに活動の計画を立てる。

(2) 乗車体験

- ・ 実際に乗車することで、地元地域の玄関口としての駅の役割に気づき、旅に出かける際の期待感を感じる場所として、駅を身近に感じることで愛着を持つことにつながる。

(3) 清掃活動

- ・ 身近に感じた駅を、かかわることでより良い場所にしようと清掃活動を行う。駅舎の掃き掃除、ガラス拭き、草むしりを行う。

(4) 地元地域の玄関口として地域をPRできる活動

- ・上下浜駅に停車した電車から乗客に見てもらえるように、学校の国旗掲揚塔に児童が制作した大漁旗を掲げ、歓迎の気持ちや地域のPRにつなげる。
(旗の掲揚は上下浜小学校の敷地内の国旗掲揚塔)
- ・ポスターやパンフレットを制作し、駅舎内に掲示したり設置したりすることで毎日利用する地域住民と観光客に喜ばれる駅を目指す。

4 その他

(1) 経費について

- ・1学期の活動は学年会計より支出する。
- ・2学期以降の計画について、モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)に関わる教員支援制度を活用する。

(富山市への校外学習、JR 上下浜駅活性化のための大漁旗、ポスター、パンフレット制作にかかわる費用)

(2) 外部講師について

- ・JR 上下浜駅の活動について、JR 東日本新潟統括センターの職員の方に指示を仰ぎ、活動の許可を得たり、出前授業の実施を申請したりし、連携を図る。
- ・富山市への校外学習について、富山市役所交通政策課の方に指導を仰ぎ、活動内容について支援いただく。
- ・パンフレットの制作においてクジラ学校への思いを子どもたちに語っていただき記事にしたり、学校の歴史について子どもたちが調べた内容について監修していただくため、『小説 くじら学校』の著者、小林甚三先生に講師を依頼する。



上越 柿崎区 上下浜

上下浜小学校 ガイドブック



上越市立上下浜小学校

jogehama@jorn.or.jp

☎ 025-536-2382 〒949-3255 上越市柿崎区上下浜569

